

平成 20 年 11 月 8 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 20 年 第 10 回講話

本日は足元のお悪い中、お寒い中、集って戴き有難うございます。

今の世の中、心の温まらない話が非常に多いので、中斎塾フォーラムがホッと心が温まる空間になれば有難いと存じます。

では、恒例の質問を致します。

「昨日一日、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

有難うございます。

もう一つお聞きします。

昨日眠る時に、「今日一日、実に良い日だったと思って眠れた方は手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

手を挙げられなかった方に申し上げますが、ご飯が美味しかったとか、何でも良いのです。

もう一つお聞きします。今日のテーマ「小人の過や必ず文る」にも重なるものです。先日、曾野綾子さんが新聞に書かれていましたが、知らない事を知らないと言える人は、共通項があったそうです。これについては自信があるというものを、何か一つ持っている人だそうです。知っている事を知っていると言え、知らない事は知らないと言える人であると良いなと思います。知らないのに知っていると云うと、自分も苦しいし回りも困ります。

「あなたは知らない事を知らないと言えますか？」

・・・有難うございます。自分に自信がないと、なかなか手を挙げづらいですね。

ではもう少しお聞きします。

「<利によりて行なえば怨み多し>です。目先の利益につられて衝動的に動いてしまった方はおられますか」

「昨日一日の中で、(失敗してしまって)言い訳をしなかった方はおられますか」

・・・沢山おられますね。

全体的に皆さんプラスの方に手を挙げて戴きました。

最後の質問です。

「昨日一日、誰かから＜有難う＞と言われた方はおられますか」

この質問に沢山の手が挙がると良いですね。「嘘をつかない」とか「約束を守る」という事は自分自身のものですが、「有難う」は他から言われる言葉で、他人が自分を認めてくれたということです。人さまの為に何かして差し上げるから「有難う」という言葉が出るわけです。

常任理事から、干支に関する話をして欲しいという注文がありました。

季刊誌「知足」の今年 1 月 1 日号に、安岡干支学に基づく今年の予測を書きました。今年の予測では、「去年は酷い年だった。今年は縄れに縄れて、国内外とも更にもっと酷くなる」と書きました。では、来年はどうなるだろうという事で、恒例の干支の話を致します。

平成 18 年から、干支についての話を始めました。

干支に関しては渡辺五郎三郎先生が話をされていますし、関西師友協会でも干支について書いています。

平成 18 年は丙戌（へいじゅつ・ひのえいぬ）です。丙は台座です。テレビカメラの前に机が置いてあって、大企業のトップや官僚の人達が出てきて深々と頭を下げている様子を思い浮かべて戴くと良いと思います。戌はまさかりです。先日、マヤ文明の映像を見ましたが、捕まえた捕虜を寝かせて上から斧をたたき下ろすと、首がポーンと跳ねて、神殿の上から落ちていく内容でした。マヤ文明の遺跡に行きましたが、生首をサーカーボールの変わりに使って競技をしたそうで、その生首をかける台座がありました。

丙戌とは、人の首がポンポン飛ぶ。台座の上に首が並んでいて、「申し訳ございません」と謝っている。という事は、それだけ世の中で問題が起きて、大変な年になるというのが丙戌です。

平成 19 年は丁亥（ていがい・ひのとい）です。丁は采の目、新旧両方の勢力がぶつかり合うことです。亥は爆発です。平成 18 年は、人様の首がどんどん飛んで頭を下げる場面が続くが、19 年はそれが継続する。偽りや嘘が表面化して、更に首が飛ぶ人達が出る。その中に爆発的なものが出てくる。実際この時は、守屋前事務次官の首が飛んだり、安倍首相が突然辞任したりしました。

今年、平成 20 年は戊子（ぼし・つちのえね）です。戊は乱れに乱れる、縛れに縛れてくる。子は鼠ですから、鼠算的に増える。今年は酷い話が国内外ともに縛れに縛れて、鼠算的に広がる大変な悪い年だと、今年初めに申しました。

来年、平成 21 年は、己丑（きちゅう・つちのとうし）です。己は長い糸がこんがらがって絡まっている状況です。丑は曲がりくねったものを真っ直ぐにしようという要素を持っています。来年は、手がつけられないほど問題が複雑化して絡み合って、色々な対策を打っても後手後手で、小手先の対策になってしまいます。

先日の麻生総理の追加経済対策で話の出た定額給付金ですが、一世帯あたり 6 万円下さるそうですが、その後に消費税を上げるというのでは、朝三暮四以外の何ものでもありません。今年は酷い年になると正月に言いましたが、どうにもならない、手の付けようのない年が来年です。

サブプライムローンでアメリカはもの凄い勢いで国力が落ちています。しかも他の国を巻き込んでいます。リーマンブラザーズが 66 兆円の負債で破産をした後に、A I G の破綻が決定的になりました。アメリカ政府は、リーマンブラザーズが破綻して世界同時株安・経済危機が始まりだしたので、慌てふためいて A I G の破綻については国のお金を入れて止めたわけです。リーマンブラザーズの雪だるまより、A I G の雪だるまの方がはるかに大きいからです。金融安定化法を作って、A I G の巨大な雪だるまが急坂を転げ落ちるのを止めようとしても、なかなか止るものではありません。

一番恐いのは、アメリカが自国だけで落ちてくれれば良いのですが、グローバル化ですから、他所の国が国家レベルで問題が起きています。国が破綻する危機です。アイスランド・ウクライナ・ハンガリー・セルビア・パキスタンが I M F に借金を申し込んでいます。

ヨーロッパ各国も、主要銀行を国有化して何とか凌いでいるような状況です。アメリカは協調融資を促していますが、何という事はない、アメリカが自分で火をつけて逃げてしまった後を、それぞれの国が自腹をきって自分の国が潰れないように努力をしているとでも云えるでしょうか。

日本には今年、多少影響が来ています。年末にはそれが表面化するでしょうから、当然、黒字の企業でも黒字倒産が出るでしょうし、倒産もかなり増えるでしょう。失業者も増えます。トヨタ自動車も、「かつてない事態に陥った」と表現していましたが、期間従業員 6000 人を来年の 3 月までに半分にすると発表しています。（平成 20 年 11 月 28 日現在、車メーカー全体で 1 万人の失業者となる旨、報道されています）

アメリカ発の経済危機が世界各国に連鎖でどんどん広がっているわけですから、日本の原因ではなく、どうにもならない廻り合わせになっているのが、来年 21 年の己丑です。長い糸が縫れ合って、どうにもならない。何とか真っ直ぐに伸ばそうと思っても、手の施しようがない状況です。

出口の見えない不況のトンネルに入って、出られなくなる年だと思って下さい。

再来年、平成 22 年は庚寅（こういん・きのえとら）です。寅が入っていますから、まだ良いですね。寅は夏から冬にかけて毛が生え変わって、非常に鮮明な綺麗な色になるのだそうです。「君子虎変す」という言葉があります。ですからこの年が、日本の岐路になると思います。日本が変わる年が平成 22 年です。どうにもならない所まで行けば、何とかしたいと思うわけです。オバマさんのように、チェンジ・変革ということを打ち出してくる。

又、寅は協力してくれる人間が出てくることを表します。ですからこの時に変わる。ここを踊り場のように捉えて戴くとよろしいでしょう。

但し、景気は良くなりません。相変わらず不況の真っ只中です。

平成 23 年は辛卯（しんぼう・かのとう）です。辛いという文字ですから、これが今回の経済不況の底になると思っています。「この人だ」というニューリーダーが出てきた翌年が、凄まじく落ちて惨い年になると思います。

私は経済破綻を起こした国々を見て回りましたが、中でも一番悲惨だと思ったのはロシアです。ソ連からロシアに変わった時に、凄まじいデノミをしました。国民を裏切るデノミです。例えば 1 万円を 1 円にして価値まで 1 円にしたようなものですから、金持ちが皆、貧乏人になりました。貧乏人が乞食になりました。自給自足が出来ない人は飢え死にしました。数千万人の単位で死んだと推測しています。そのように惨く辛い年になるのが、平成 23 年だと思っています。

平成 24 年からは浮上し始めて、明るい年になると思います。それまで長いですね。

これは日本の動きだけでなく世界の動きと連動していますから、安岡干支学だけで判断すると恐い。アメリカの動き、世界各国の動きと照らし合わせながら、判断を変えていくものだと思っています。しかし根っこは今、お話したものです。

注意しておく事は、平成 22 年は少し良いかなと思いますが、23 年が一番酷くなる。こういう知識を頭の中に置いて動いて下さい。知識があると、自分自身の予測が出来ますか

ら、対応策が生まれます。来年は歯を食いしばってやっていかなければいけません。こういう時には、何か自分自身の小さな楽しみを見つけて、心の癒しを作っておくと良いでしょう。

これから色々な問題が襲ってくるわけですから、どうすれば生き残れるか、お話しします。非常に単純明快です。自分自身がこの世でどういう人生を送りたいかという人生哲学を持っているかどうか。もう一つは、確かな情報を手に入れる手段を持っているかどうか。この二つです。きっちりした人生哲学を持つと、きちんとした判断力が生まれるし、確かな情報からもきちんとした判断力が生まれます。そうするとその判断力の結果、対策と行動が生まれてくる。根っこは確かな情報と人生哲学です。それがなければ右往左往します。

具体的なキーワードだと考えている事は、23年24年頃までは経済は揺れに揺れますから、経済対策については真剣でないと生き残れなくなります。二番目は新型インフルエンザの襲来。三番目は大型の地震です。

これらの問題に対処する時に、自分自身の哲学が身に付くかどうか、仲間が作れるかどうかによって、生き残りが約束されると思います。哲学があると、知識・見識・胆識で行動する事ができます。知識がどんどん入ってくると、将来がある程度見通せます。又、自分なりに努力をすれば何とかできます。そういう事の積み重ねで毎年毎年過ぎていけば、全てが思い通りに行くわけではありませんが、大体その線でいくと思います。

肝心な事は、もっと、もっと・・・ではなく、目標を立てたならほどほどの所でよしとする。目標を100%達成して、あわよくば120%迄・・・というのは危ない。特にそれがお金になると、拝金主義に陥って、今の世の中を覆っている我欲・心の荒みに直結します。腹七分目、ほどほどで満足しようという知足の心で進んでゆけば、大きな間違いはない。それが自分自身の会社・家庭・地域の中、ひいては日本の国全体に広がってゆけば良いと思っています。

アメリカの話に戻ります。バンクオブアメリカが1兆円の増資を発表しました。よほど不良債権を抱えているのでしょう。日本の金融機関は何も問題がないと言っていますが、三菱UFJも1兆円の増資を公募しています。裏にどういうものが隠されているのかと思わざるを得ません。それは根っこに経営者層の、このチャンスにもっと稼ぎたい・もっと儲けたいという欲があるからだと思います。

ほどほどで我慢すれば良いではないか。知足の心が、多分こういう問題を解決してくれるのだろうと考えています。

オバマさんが新大統領に決まりました。経済対策に力を入れると言っていますが、どういう手を打つか。特にA I Gに対しては、これ以上打つ手のない状況になっているはずですから、オバマさんの打つ手によって今後のものが見えると思っています。

そうなってくると、やはり来年は縛れに縛れます。資本主義も共産主義も行詰ったのです。お金がベースになる世界は終わりです。ならばお金に代わるものは何か、それが来年はもっと議題になると思います。

そう考えて私は今年、ブータンに行きました。ブータンはG N H（国民総幸福量）を打ち出している国です。沢山稼いだ国が良い国だという考えはもう終りで、国民が幸福かどうかでその国が良い国かどうかを判断するという事をブータンの国王が宣言しています。今、日本にもブータンの研究会が出来ていますが、来年はブータンが更に注目されて来るのではないかと考えています。

アメリカが基軸通貨の国としてはもう脱落コースに入りました。そしてあちこちに問題をばら撒いたものだから、それぞれ基軸通貨になりそうなユーロや中国やインドは、それぞれ各地域ごとに生きていく地域券のようなものが出来てくるだろうと思います。

そのような中で、日本の場合は孤立化すると思っています。日本はそのうち、油など入ってこなくなるし、食べものも入ってこなくなる。人間として生き延びていく上で、かなり困る状況になると思います。

ならばその時の為に何をしておくか……。自給自足が必要でしょうし、親戚や友達に農家の方がいたら、仲良くしておくといいでしょう。食品偽装の問題が出てから、何を信じて食べたら良いか分からなくなりましたが、そういった観点からも、自給自足をお勧めします。最近私が買う野菜は、作った人の名前が書いてあります。誰が作ったかがはっきりわかるものでなければ、安心して口に入れられない時代に入ってきたと思います。これから食生活がどんどん変わってくるだろうし、変えていかなければならないだろうと思っています。その一つのターニングポイントは、平成 23 年だろうと考えています。

近未来を考えると、経済危機だと思います。経済危機とは、スーパーやコンビニに食べものはあるけれども、値がつり上がって手に入りにくくなる。そして自分の収入はどんどん減る。収入が激減して、生活用品はどんどん値上がりする。それが来年の状況だと思っています。

その次の年の庚寅は、どうかしようと思うけれども、そういう状況に歯止めはかからない。ニューリーダーが出て、何とかなると期待をかけるけれども、翌年が真逆さまに落ちる状況だと思っています。

それでも何とか生きていられる。経済危機とは、生きていけるという前提でのものだと思っています。それが恐慌になったら暴動です。

今の所、新聞に出しているのは「世界同時経済危機」「世界同時金融危機」という言い方ですが、「恐慌の危険性がある」と盛んに煽っています。恐慌とは、暴動が起きてスーパーやコンビニ等に食品が一切なくなる事態です。食べものを倉庫に隠しているのではないかと、襲って焼き討ちする。警察や自衛隊が出て鎮圧しようとする時に、武力行使をするという状況です。テレビであちこちの国の暴動を目にした事があると思います。あそこまで酷いものが起きない事を祈るけれども、ここの時の対応を間違えると危ないでしょう。国内もごく一部の地域で、似たような騒ぎが起きるだろうと思っています。ですから相当、禪を引き締めて生きていかなければいけません。

この中斎塾で一緒に勉強し、身に付けていきたいのは「知足の心」です。こういう状況下、こういう世界になってくると、日本は今の所まだそれほどの危機感はない状況だと思えますが、年末から来年にかけては相当酷い状況が津波のように押し寄せてくると思います。

今、申し上げているのは知識です。知識をある程度入れておくと、自分なりの予測が立てられます。出来る限り新聞を読み、テレビやネットを確認しながら知識を増やしてゆき、知識がある程度貯まると、それが弾けて自分なりの＜こうすべきだ＞という見識が生まれます。後は実行するのみです。実行する時は、胆識がないと実行に移りません。胆識は修羅場を経験しないと、なかなか出てきません。

今、この段階で覚えて戴く事は、知識は出来るだけ新鮮なものを得て、それも新聞・テレビの報道を鵜呑みにするのではなく、人と人との話の中で、或いは専門家の話を聞きながら自分の判断基準でふるいにかけてゆく。その結果として残った情報が、本物の情報です。そういう友達作りが必要だと思っています。

私はそういう事をしながら、日本の国が崩壊するという最悪の状況も想像しなければなりませんから、そうなると争奪戦が始まり、日本の戦国時代の群雄割拠のような事になるのではないかとと思っています。政府が政府としての機能を果たさない、無秩序事態が想定される。その状況下では、自分で自分の身を守らなければいけません。自分で自分の身を守る為の方法をもっと研究して、自分の身の守り方・家庭の守り方・組織の守り方を考え

ています。具体的には特殊警棒やヘルメット、楯といった合法的な武器の類を押さえておく必要があると思っています。又、食べものも押さえておく必要があります。

私は先日、会社に非常事態宣言を出しました。自分達の見ているものはほんの目先ではないか、もう少し世界の動きに目を広げて見なさいと話をしました。アメリカ発の経済危機がどのように世界に広がっているか、日本にどういった津波が押し寄せてくるか、自分の頭で考えるように言いました。最悪の事態になってお金が使えなくなる、或いは食べものが手に入らなくなった時の為に、会社として打つ手を準備し始めました。尚且つ、新型インフルエンザが襲って来るとか、大地震が来たらとんでもない事態になりますから、非常事態宣言を出して、日常生活を切り替えるよう話をしていますし、会社としての対策もしています。私の切迫感はかなり伝わったと思っています。

最後に本日の心に残る言葉を申します。

本日の心に残る言葉は、佐藤一斎の言志四録からとりました。

「くんし みづか けん君子は自ら慊し、しょうじん すなわ みづか あざむ小人は則ち自ら欺く。くんし みづか つと君子は自ら彊め、しょうじん すなわ みづか す小人は則ち自ら棄つ。しょうたつ かたつ上達と下達とは一つの自字にじ じ らくざい落在す。」

君子は自ら慊し、小人は則ち自ら欺く・・・君子は自己満足することなく、もっと勤めようと思う。小人は失敗したと思っても、まあまあ何とかなったと自分自身の心を欺いている。

君子は自ら彊め、小人は則ち自ら棄つ・・・君子は諦めないで最後まで努力する。小人は途中で諦めてしまって、投げ出してしまう。

上達と下達とは一つの自字に落在す・・・一つの自字とは、慊と欺・彊と棄です。

自分は君子型か、小人型か時々思っで戴くとよろしいでしょう。

お時間になりました。以上で本日の東京フォーラムを終了させて戴きます。有難うございました。